

**第2期ロジスティクス環境会議  
第4回グリーンサプライチェーン推進委員会 議事録**

I. 日 時：2007年2月15日（金） 14：00～17：10

II. 場 所：東京・港区 グランパーク三田 301会議室

III. 出席者：25名

IV. 内 容：

1) 勉強会

2) 分科会活動

<取引条件分科会>

(1) 第3回委員会での決定事項の確認と本日の進め方について

(2) 共同物流に関する既存のマニュアル及び報告書について

(3) 共同化の分類について

(4) 共同物流推進プロセスについて

<源流管理分科会>

(1) 第3回委員会以降の経過について

(2) 「LEMSチェックリスト チェック項目に関する追加、修正、削除」アンケート結果について

(3) チェックリストについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、山本委員長の司会のもと、以下のとおり議事がすすめられた。

VIII. 議事

1) 勉強会

以下のとおり、勉強会が開催された。

1) 鹿島建設 中澤委員

「鹿島の環境保全への取組み」

2) マネージメント&システム研究所 高橋氏

「SCM構築におけるロジスティクス部門の役割」

2) 分科会活動

<取引条件分科会>

(1) 第3回委員会での決定事項の確認と本日の進め方について

事務局から資料1、資料6に基づき、第3回委員会での決定事項の確認、本日の検討事項が説明された。

(2) 共同物流に関する既存のマニュアル及び報告書について

事務局から資料2、資料3-1、資料3-2、資料3-3に基づき、共同物流に関するマニュアル、報告書について説明がなされた。

(3) 共同化の分類について

事務局から資料4に基づき、共同化の分類と具体例について説明がなされた。

(4) 共同物流推進プロセスについて

事務局から資料5に基づき、共同物流を進めるにあたっての具体的な作業の進め方の案が説

明された

## 【主な意見】

(ガイドのねらいについて)

- 委員：過去においても共同配送の取り組み例は多いが、成功の事例が少ない。CO<sub>2</sub>削減など、環境は変わってきていることも踏まえ、実行性のあるガイドにする必要があるのではないか。
- 委員：大規模の荷主は実行しやすい。小規模荷主が実行できるガイドがキーワードになるのではないか
- 委員：小規模な荷主という難しいところから手をつけて、汎用性も持つようにしていく。
- 委員：大規模小売と小規模小売では、質や量も含めて、抱えている問題が違うのではないかと。
- 委員：小売業でもチェーン化され、共同配送センターを持っているところもある。地場に密着した小売業（パパママストア）を対象とするべき。
- 委員：小規模荷主はそもそも物流コストを把握していないため、ガイドを見て実行しても効果をつかめない。
- 委員：今までのガイドよりも、もう一步踏み込んだ内容にしてはどうか。「考えなさい」ではなく、一緒にやろうというイメージにしてはどうか。
- 委員：ヒントになるようなものを作ってはどうか。
- 委員：あるモデルを作るためにはこういう手順でやればよい、というものを作るべきではないか。

(計画主体の設定について)

- 委員：今までのものは主体がわかりにくいと考える。
- 委員：小規模荷主は物流事業者が主導したほうが動きやすい。
- 事務局：地域の独立した小売業においては、着荷主からはリードしにくいとため、物流事業者が仕掛けることになるだろう。
- 委員：大規模小売業が必ずしも非効率ではない。ネットワーク化された大手の卸が入り込んで効率化を図っているのではないかと。
- 委員：卸が機能しているから小規模小売業が生き残っている。主体は卸になるだろう。
- 委員：卸から小売業への流れが集約されている場合には、メーカーから卸への流れが中心になるだろう。それにあたり、商流の情報を卸から取ってはどうか。
- 委員：外食は同じエリアに複数の卸が入り込んでいるため、小売業の卸とは異なり、飲食業の卸は改善しにくい。
- 委員：主体を決めるにあたり、小規模小売店は大規模小売店よりも採算性が悪いというデータを入手する必要がある。
- 事務局：チェーン化されていない小売業はデータを取りにくく、一番問題である。
- 委員：主体をステップによって変えるというのはどうか。
- 委員：一番問題なのは、目的やコストの把握などが、発荷主、物流事業者、着荷主の間で同じではないことである。
- 委員：量率による支払契約にして物流事業者の効率化を図るなど、発荷主側が主体的に動かなければいけないだろう。
- 委員：荷主としっかり交渉している物流事業者もある。ただし、原価計算などきちんとやろうとしても、荷主が面倒くさがる等により、できない物流事業者が多いだろう。
- 委員：環境会議において、共同物流の計画を策定する諸端に、発着荷主が物流事業者に協力するといったような宣言を出すのも一案ではないか。
- 委員：宣言をする際に、代表を大手小売業に務めてもらい、他の小売にも理解してもらう必要がある。
- 委員：発着荷主に、現状が非効率であることを共通に認識させないといけない。

(地域及び共同化のパターンの設定について)

- 委員：卸が共同配送センターに入ることに課題はあるが、センターへの効率化が小規模小売業へのコスト削減につながるのではないかと。
- 委員：卸同士は情報を交換していないから共同化をしたくてもできないのではないかと。各々が何とかしたいと思いつながら手が打てないのではないかと。
- 委員：例えば市内というように、地域やエリアは絞らないといけない。
- 委員：もう少し大きくてもいいのでは。ある地方では1社でその地域の大過の食品物流を担っている。そこには情報が集約されており、何かわかるかもしれない。
- 事務局：資料4、図表2のどのイメージかが重要である。
- 委員：図表2-1にある、共同配送センターは設備投資が難しい。
- 委員：大きなところに間借りしてはどうか。図表2-2のように発荷主のルート集荷はうまくいくのか。
- 委員：発荷主は分散しているのでルート集荷は難しい。図表2-1と図表2-2を合わせてはどうか。
- 事務局：発荷主から共同配送センターまでは図表2-1で、共同配送センターから着荷主までは図表2-1ということでどうか。
- 委員：自社の情報システムを外販している会社は僅かしかない。各社の情報システムの共有化が難しい。
- 委員：実態を調べてみる必要がある。

#### 【決定事項】

- ・ ガイドの主な読者（利用者）はチェーン化されていない小規模発着荷主を対象とする。
- ・ 共同化をリードする主体は画一とせず、計画の策定段階（ステップ）に応じて決める。
- ・ 地域及び共同化のパターンにおいては、資料4にあるパターンを何種類か複合させる。
- ・ 3月の本会議でガイドの編集方針及び全体構成（目次案）を出す。

#### <源流管理分科会>

##### (1) 第3回委員会以降の経過について

事務局より、資料7に基づき、第3回委員会以降の経過について説明がなされた。

##### (2) 「LEMSチェックリスト チェック項目に関する追加、修正、削除」アンケート結果について

事務局より、資料8-1、8-2、参考資料3-2に基づき、第3回委員会後に実施した「LEMSチェックリスト チェック項目に関する追加、修正、削除」アンケート結果について説明がなされた。

##### (3) チェックリストについて

###### i) チェックリストのねらいについて

事務局より、資料9に基づき、チェックリストのねらい（案）について説明がなされ、以下の意見交換がなされた。

#### 【主な意見】

- 委員：「他社との比較」がどこまでできるか難しいところはあるが、回答企業全体との比較ができれば、ある程度の目安になると考える。
- 委員：3.の中の、“一部の企業のみや特定の業種のみを対象とした”という点まで書く必要はないと考える。また、“多くの企業で使える”とあるが、“使える”という語句を、その上の“1.及び2.の項目で有用である”といった記述に変更すべきだと考える。
- 事務局：ご指摘のとおり、修正する。

幹 事：本分科会では、物流部門でできる範囲についてのチェック項目だけではなく、全社的に取組みを進める上で、他部門への働きかけのために必要となる項目も記載すべきと考える。その観点から考えると、“グリーン物流”よりも“グリーンロジスティクス”の方がふさわしいと考える。

事務局：ご指摘を踏まえ、“グリーンロジスティクス”という標記に修正する。

#### 【決定事項】

・本日の意見を踏まえ、事務局で修正案を作成することとする。

#### ii) チェックリストの構成について

事務局より、参考資料3-1に基づき、チェックリストの構成の見直しに関する委員意見を紹介した後、資料10に基づき、現在の構成について説明がなされ、以下の意見交換がなされた。

#### 【主な意見】

委 員：参考資料3-1に“SEEの項目を追加する”とあるが、具体的なイメージを教えてください。

事務局：例えば、包装資材の削減に関しての①目標設定、②削減活動実施に加えて、③目標と実績の差異を比較、分析しているかという設問になると考える。

委 員：最初から方針/活動の区分けは難しいため、当面、チェック項目の追加、削除、修正の検討を行ってはどうかと考える。また、現状の分類に入らない項目が発生した場合は、新規の分類を検討し、設定してはどうか。

幹 事：言葉の使い方によって、方針にも活動にもなると思われるので、チェック項目の検討に入ってはどうかと考える。

委 員：大分類、中分類、小分類と固めていくのが通常のやり方だと考えるが、たたき台がある以上、チェック項目から検討を進める方法でよいと考える。

#### 【決定事項】

・当面、チェック項目の検討を行っていくこととする。

#### iii) チェック項目について

事務局より、資料8-2に基づき、各チェック項目に関する、追加、修正、削除意見を紹介しながら、各項目の検討に入った。

#### 【主な意見】

(全般的な意見)

委 員：企業の立場から見ると、LEMSチェックリストはたいへん回答しにくい内容であり、見直しが必要だと考えるが、一方で2002年度の結果と比較をするのであれば、あまり項目を変えないほうがよいと考える。どのように利用する考えなのか教えていただきたい。

事務局：2002年度の結果との比較ということは想定していない。あくまでも資料9で確認したねらいに基づくリストを策定していただきたいと考える。そのためには、“回答しやすさ”は重要なポイントの1つであるため、ぜひ皆様からそのような視点でのご意見をいただきたい。

(チェック項目1)

幹 事：ISO14001や運輸安全マネジメント、あるいは改正省エネ法を考えると、トップのコミットメント、方針、推進体制、計画・実施、教育訓練という内容となっている。本チェックリストの全社的な取組みについても、同様の形式にすべきではないか。

委 員：「方針・目標を“トップがコミットメントして”策定」に変更してはどうか。

(チェック項目2)

委 員：“検討”を“実施・策定”に変更してはどうか。

(チェック項目 2´)

事務局：コミットメント、方針の後に続く“推進体制”とは、何らかの組織化がなされていることを想定しているかご教示いただきたい。

幹事：小規模な企業では組織や専任者は設置できないものの、何らかの体制を構築して推進することが求められると考えられる。したがって、“グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている”といった表現でよいと考える。

(チェック項目 2´´)

委員：推進体制の後に続く、“計画・実施”のイメージを教えてください。

幹事：“今年の方針や計画”を策定し、職員に周知徹底するというイメージである。したがって、“グリーンロジスティクスを推進する計画を策定し、周知徹底している”といった表現でよいかと考える。

(チェック項目 5)

委員：“啓発活動”を“教育訓練”に変更してはどうか。

(チェック項目 4)

事務局：資料 8－2 では環境報告書への否定的な意見があるが、これは残しておいてもいいのではないかと考える。

(チェック項目 6)

委員：資料 8－2 にあるとおり、法令遵守は企業として必須であり削除してもいいのではないかと考える。

委員：中小企業ではなかなか遵守できていない企業もあると思うので、残しておいてもいいのではないかと考える。

(チェック項目 7)

幹事：当社でも環境会計を取り入れているが、手間をかけて数字を出しているほどの意味はないと考える。M F C A (マテリアルフローコスト会計) や E E B E (企業等の事業活動やそれに生じた製品・サービスの社会・環境貢献度を外部経済効果として評価する貨幣単位の指標のこと)の方が有益だと個人的に考える。

幹事：“ロジスティクス分野”と限定すると難しいのではないかと。

幹事：ロジスティクス分野においても、低公害車の投資コストや廃棄物だったものが有償で販売できた際の売却収入などを集計することはできる。

委員：環境会計よりもグリーン調達等の方が重要だと考える。

事務局：2.1③に環境負荷の低い素材を使用という記載はあるが、あくまでも包装材に限った内容である。別途ご議論いただきたい。

(チェック項目 8、10、11)

幹事：認証としては I S O 1 4 0 0 1 となるが、対象範囲が狭くなるので、現状のまま I S O 1 4 0 0 0 s でよいと思う。ただし、I S O 1 4 0 0 0 s とした場合には、“事務所や物流拠点”という表現が必要かどうか疑問である。

幹事：“認証を取得していないとだめ”ということではなく、認証を取得していなくても、それに類する実質的な活動をしていればいいのではないかと考える。

委員：“取得、あるいはそれに値する活動を実施している”という表現にしてはどうか。

(チェック項目9)

委員：物流拠点でのゼロエミッション活動というのはしっかりこないことに加え、チェック項目3に包含されることから、削除してはどうかと考える。

事務局：2002年頃には、工場でのゼロエミッション活動が活発に実施しており、それが物流拠点でも行われているか聞いてみたと考えられる。

委員：物流拠点でのゼロエミッション活動とはどのようなことなのか教えていただきたい。

幹事：例えば、今まで廃棄していたストレッチフィルムを業者に持ち帰ってもらったり、輸出のバンニングの際に利用する等により、廃棄をゼロにしている。

委員：物流においてもゼロエミッション活動は大きな意味を持つ活動かどうか教えていただきたい。

幹事：例えば、ヤマト運輸の環境報告書を見ると、伝票類の紙のリサイクル含めたゼロエミッション活動に力を入れて取り組んでいる。私は重要な活動の1つだと考える。

委員：“ロジスティクス活動においてゼロエミッション活動に取り組んでいる”という表現にしてはどうか。

#### 【決定事項】

・チェック項目1から11の見直しがなされ、別紙13項目となった。(別紙参照)

#### 3) その他

第5回委員会については4月に開催することとなった。詳細は別途連絡することとする。

#### VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以上

(別紙) 検討結果

旧	新	
1	1	企業の環境方針の中に、ロジスティクス分野に関する方針・目標を <b>トップがコミットメントし、策定</b> している。
2	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針・活動が <b>策定・実施</b> されている。
	3	<b>グリーンロジスティクスを推進する体制が構築</b> されている。
	4	<b>グリーンロジスティクスを推進する計画を策定し、周知徹底</b> している。
5	5	社員へ環境に関連した <b>教育訓練(人材育成)</b> を行っている。
3	6	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における <b>環境対策</b> を実施している。
4	7	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。
6	8	ロジスティクス分野において、法令遵守(各種リサイクル法、過積載輸送の防止など)している。
7		<b>ロジスティクス分野において、環境会計を取り入れ</b> ている。
8	9	ISO14000sを取得、あるいはそれに <b>値する活動</b> を実施している。
10	10	エコアクション21(環境省)を取得、あるいはそれに <b>値する活動</b> を実施している。
11	11	グリーン経営認証を取得、あるいはそれに <b>値する活動</b> を実施している。
9	12	ロジスティクス活動において、 <b>ゼロエミッション活動</b> に取り組んでいる。